

ジャグパル

JugPal

2005年7月4日 第28号



インタビュー

【 ANFiKS さん 】

はじめに

久しぶりにパワー溢れる大道芸らしい大道芸を見ました。
“ANFiKS(アンフィクス)”のお二人のパフォーマンスです。
「ファイヤーショー」と銘打って、個性が各々対極にあるかの
ような二人がアクロバットを交えたファイヤートーチのコンビ
ネーション・ジャグリングをスリリングに見せてくれます。



ANFiKS のお二人
芸人まこと (左) としゅうちょう (右)

ただしそれはショーの後半部分であり、前半は笑いっぱなしのリラックスして楽しめる軽めので、そのギャップある構成が彼らの魅力の一つなのかもしれません。

ANFiKSは“芸人まこと”と“しゅうちょう”からなるユニットで、結成して七年になるそうですが、普段は別々に活動していて、時々“ANFiKS”として登場し我々を楽しませてくれます。

さてそんなお二人の個性とは、そしてそこから生まれるANFiKSのショーとは？さらに加えて彼らが手がけようとしている活動「P-JAM STYLE」とは？

芸人まこと、1976年生まれ

とにかく経歴がユニークです。会社員も経験していますが、板前、ホスト、バー経営者、女性を働かせて金をみつがせる恋愛関係にある男＝ひも、ホームレス……！！

その後金を稼ぐために、新宿などの繁華街でバルーンで動物などを作って街頭販売していました。その頃98年に渋谷でバルーンを売っている時にしゅうちょうと偶然出会い、既に大道芸人として活動していた彼からデビルスティックとディアボロを見せてもらい感動し、こっち(ジャグリング)の方がバルーンより儲かると直感し、ジャグリングをツールとした大道芸をしようと思い立った一週間後には道具を携え道に立っていたそうです。

と言っても始めた当時は何もトリックが出来ず、驚くべき事に基本中の基本であるカスケードすらできない状態で、さらに道具としてはファイヤートーチのみで、三本投げても当然キャッチすらできないのですが、それも計算の上で喋りの笑いネタにしてしまうという度胸の良さ！

『(まこと)振り返ってみるとジャグリングには大して興味は無く、興味があったのは大道芸。バルーンを売っていた時よりも大道芸の方が儲かったからね。』

時折芸人仲間にジャグリングを教えてもらい練習するも、『(まこと)練習嫌いだったし、本番が練習を兼ねているような感じで、一年間はカスケードすら出来なかったんですよ。』というジャグラーにとっては衝撃の証言。

だって普通テクニックも無しに道に立つなんてあり得ない……

しゅうちょうに当時の話を聞いてみると、『(しゅうちょう)大道芸って技術が無いと出来ないと考えていたけれど、彼の場合は無くても出来てしまうところが凄いなと思いましたよ。』

技術が無くても、トークには自信があり、話しの巧さで観客を笑わせ惹きつけてしまう、それが“芸人まこと”の出発点のようです。

しゅうちょう、1971年生まれ

92年に大学に入学し社交ダンスとヒップホップダンスにハマり、在学中の95年に静岡大道芸ワールドカップに行き初めてジャグリングを見て楽しむも、自分にはとても出来ないと思いつつ、一方バルーンは自分にも出来そうだと、しかも金を稼げそうだと思う、その後独習し学園祭などで売っていたそうです。



並行して学内に大道芸サークルができたのを知りバルーンのレパトリーを広げようと入会したのをきっかけにジャグリングを始めることとなり、すぐに自分がリーダーとなってサークルとして公園で芸を披露し始めます。

一年後再びワールドカップに行ってみると昨年の印象とは違い、プロのジャグラーが演じている技は自分にも出来そうだと思う、さらに新宿で大道芸をすればたくさん稼げるといった話が、卒業後の進路に悩んでいた彼の背中を後押しし、芸人への扉を開くこととなります。97年のことでした。

98年に卒業後(んっ？ずいぶん長い学生生活だったのね)、新潟・鳥取・熊本・大阪と友人宅を泊まりつつ各地で大道芸を披露したのが“しゅうちょう”の出発点のようです。

大道芸 = 金儲け! ?

さてお二人の大道芸の世界に入るまでの過程の中での共通点は何でしょう？

ずばり「金 money -」でしょう。

要は金儲けが大道芸を始めるきっかけだったようですが、表現者としての自己表現手段とかそういった類の言葉もなく、あまりにも動機がストレートすぎて気持ち良いくらいです。

ある意味それこそ大道芸の本質を突いているのかもしれない。



中世社会において農耕社会からはみ出し漂白民や河原者となった、いわゆる無為徒食の輩が生きるために始めた門付芸や舌耕芸が大道芸の原点とするならば、大道芸に求めるものはまさに金(生きる糧)であり彼らの話に何ら違和感はありません。

あっ、誤解の無いように。別にANFiKSのお二人を無為徒食の輩に例えているわけではなく、あくまで大道芸の持つ娯楽性・芸術性とは全く別の生業としての側面を言いたかっただけです。

しかし動機は何であれ一年ぐらい大道芸をしていると、心情も変化しパフォーマンスが楽しく、ショーをすること自体が好きになってきたようで、もちろん金を稼ぐことは大事だけれど、それが全てではなく今はとにかくのめり込んで楽しいとのこと。

逆に金が稼げない、つまり投げ銭が取れないような実験的なショーにも興味があり、現在設立準備中の会社P-JAM STYLE(後述)の中でそういったショーを企画して演じてみたいとも仰っていました。



ANFiKSについて

--- ANFiKSのショーの構成としては、前半にジャグリング(シガーボックス、ディアボロ)、マジックあるいはバルーンを組み入れた軽めの作りの中で、まことさんのトークをメインに前面に押し出して笑いを取りまくり、一気に後半のファイヤーショーへ続けていくという流れですが、構成は誰が考えるのですか。

『(まこと)僕がほとんど考えますね。しゅうちょうはねえ、ネタつくれないんだよぉ〜。(笑)

僕はアイデアとひらめきで言い放ちみたいなのところがあるけれど、しゅうちょうは黙々と一つの作業をこなすのが得意なんです。二人の性格の違いがはっきりしているからショーにもメリハリがつくのかもしれない。

また結局は二人ともいい加減なところがあって、構成に関して話し合ってもぶつかりあっても、最終的には、まあいいかぁ〜、で収まっちゃう。ひどいと言えばひどいけれど、だから出来るんだろうね。』

『(しゅうちょう)僕は人が演っているのを見たり、あるいはひたすらビデオを繰り返して見たりして、芸を分析してヒントを見つけ出します。理学部卒のせいか、計算や論理性を求めたりするけれど、まことはイメージ先行で考えるから理論外の面白さが出たりするわけです。』

--- 一人と二人の場合ではやりたいことが違う？

『(まこと)一人では出せない笑いとか、一人では創り得ない世界観とか、一人では限界があるんですよ。個人個人が個性を出しているつもりでも、パフォーマンス内容は似たり寄ったりしてくるけれど、二人でやることによってその限界を超えられると思っています。』

--- 二人のそれぞれの役割は？

『(まこと)コンビを組んで最初のうちは二人で喋っていたけれど結局上手いかず、今は二人共にマイクを付けてはいるものの僕の喋りが中心でまわっています。』





“まこと”が“しゅうちょう”を突っ込むスタイルが確立しているけれど、ショーにはいろいろな展開が出てくるわけで、何かハプニングが起こってもアドリブトークで交わしていく時には、守り(待ち)と攻めの役割分担がはっきりしているとやりやすいし、しゅうちょうがあわせてくれるから助かるよ。二人の相性が良いのかもしれないな。』

--- 今後広げたい芸の領域は？

『(まこと)何かをやりたいとかではなく、ショーとしての完成度を高めたい。例えば面白さを追求するとか、ショーの中で芸とは関係ない部分で観客が冷めてしまうようなところがあるけれど、そこを埋めるように笑いを、とにかく短いスパンでポンポンと何十秒に一度笑えるような、そんなインパクトのあるパフォーマンスとか……。でも逆に全く笑いのないようなショーも作ってみたい。僕ら大道芸人はステージのショーとは違って全て自分でやらなければいけない、逆に言うと束縛されずに何でもやれる立場にあるわけだから挑戦していきますよ。それと爆発力だね。』

--- 爆発力、どういう意味ですか？

『(まこと)当たり障りのない平均点の芸じゃなく、クレームが無いような芸じゃあダメなんです。例えて言うなら大道芸界のドリフターズになりたいね。「8時だよ、全員集合」って番組は当時下品で子供たちに悪影響を及ぼすとワースト番組に指定されたけれど、人気は絶大だったでしょ。それはある意味時代を先取りして、あれだけの長寿番組と言うことはそれだけパワーがあったということで、大道芸も面白くてナンボの世界で、そういった新しいものを模索して先取りしていきたいですね。』

P-JAM STYLEとは？

彼らのWebサイト<<http://www.p-jam.net/>>にはこう書いてあります。

『P-JAM STYLE(ピージャム スタイル)は、大道芸の新しい世界を作るため“芸人まこと”と“しゅうちょう”が設立した団体で、各々の大道芸だけでなく、さらに大道芸を使ったイベントにおいても新しいものを作りたいと考え、現在、法人化に向けて始動しています。』



--- もう少し詳しくお話して下さい。

『(まこと)イベントプロダクションです。大道芸のイベント等をもっと面白くすれば、「大道芸・イコール・面白くて楽しいもの」という世間の認識ができて、大道芸が発展してさらなるレベルアップが期待できると思うんです。

クライアントの目的に叶いクライアントが満足し、かつ芸人が金銭面のみならず十分に自分たちの力を発揮して観客に喜ばれるようなパフォーマンスが出来るようなイベントをプロデュースしたいんです。

僕は芸人として活動しているので当然芸人の考え方は分かるし、かつ僕は会社員の経験からクライアントの考え方も理解出来ます。つまり芸人の目線を残しつつクライアントも満足するようなイベントをプロデュースすれば、両者が WinWin 状態になってもっともっと大道芸は面白くなりますよ。もちろん営業面とは別に、お金につながらない実験的なイベント(パフォーマンス)も企画したり自ら演ってみたいですね。』

おわりに

お二人とのインタビューの最中、私はほとんど笑っぱなしでした。そのみならず話を書き落とすためにICレコーダで録音した会話を自宅で聞いてまたまた笑ってしまいました。

聞き返してみるとほとんど喋っているのはまことさんと、まさにマシンガントークのノリで、時折しゅうちょうにツッコミを入れたり、本当に面白おかしくあつという間の三時間のインタビューというか飲み会でした。



この記事から察して、まことさんは元気の良い怖いモノ知らずの切り込み隊長、しゅうちょうは慎重に戦況を判断して作戦立てする後方部隊みたいに思われるかもしれません。

その通りかもしれませんが、イベントがあると遅刻や現地での準備などの心配事に悩まされ前日泊で移動するのがまことさんと、時間に余裕を全く持たずあまり先のことを考えないのがしゅうちょうだったり、意外な面もお伺いすることができました。



何にせよお二人の相反する個性が補い合うなり相乗効果を生み出すなりして、確かにソロパフォーマンスでは観られないような楽しいIANFIKSの世界が生まれてくるのでしょう。

今後のお二人のご活躍を楽しみにしています。



[安部 保範]



ジャグリング・フェスティバルに行こう

もうすぐ夏が来ます。夏休みの人も多いということで、世界のあちこちでジャグラーのお祭り「ジャグリング・フェスティバル」が開かれます。大きな国際大会から小さな地方イベントまで、規模や形態もいろいろですが、日本のジャグラーに関わりが深いフェスティバルは次の3つでしょう。

ジャパン・ジャグリング・フェスティバル2005 (JJF2005)

2005年8月12日(金)から8月14日(日)まで、大阪市浪速区大阪府立体育館第二競技場で開催。公式サイトは準備中で、日本ジャグリング協会のサイト <<http://www.juggling.jp/>> よりリンクされる予定。何と言っても、日本人にとっては地理的に一番参加しやすいジャグリング・フェスティバル。今年で7回目を数えるが、年ごとに参加者が増えるとともに(昨年は約260人)レベルも向上し、イベントも充実してきた。IJAフェスティバルを手本にしているが、開催年によって趣向や特色が変わる。今年には海外ゲストとしては、Peapot 社のビデオ・シリーズにおける独創的な技の数々で著名なフィンランドの Ville Walo 氏を、国内ゲストとしてはジャグリングとパントマイムの池田洋介氏を迎え、ゲスト・ステージ・ショーやワークショップを開催する。参加費は全日参加6000円で、非協会員は入会費4000円が他に必要(18歳未満は、これらが半額)。詳しく正確な情報は、日本ジャグリング協会サイトの掲示板のアナウンスおよびJJF2005公式サイトを参照のこと。

第58回 IJA ジャグリング・フェスティバル

2005年7月18日(月)から7月24日(日)まで、アメリカ合衆国アイオワ州ダヴェンポート市(Davenport)で開催。公式サイト<<http://www.juggle.org/festival/>>。もっとも歴史が長く、IJA (International Juggling Association) から発売される大会記録ビデオを通じて、日本人にとってもなじみが深いフェスティバル。アメリカ人が参加者の大多数を占めるが、世界各国からのジャグラー達も集まる。期間中に開催されるコンテスト「チャンピオンシップ」は一流ジャグラー達の腕試しの場として有名で目玉の1つであるが、他にもさまざまなショーやイベントが行われる。昨年の参加者数は、800人。今年にはメイン・ゲストとして、Lazer Vaudeville Show を迎える。

ヨーロッパ・ジャグリング・コンベンション2005 (EJC2005)

2005年8月14日(日)から8月20日(土)まで、中欧のスロヴェニア共和国プトゥイ市 (Ptuj) で開催。公式サイト <<http://www.ejc2005.com/>>。ヨーロッパ各国が持ち回りで開催する大会で、開催地ごとに規模や形態が大きく異なる。例年の参加人数が2000人から4500人と多く、屋外や大型テントを会場として併用し、参加者の大多数はキャンプ生活をする点が、EJC一般の特色である。また、突出した上級者達が居る一方で、全体的には初級者の比率が高いとも言われる。今年、EJC初の中欧(旧東欧圏)開催ということで、参加者はやや少な目と予想されるが、旧東欧圏の優れたジャグラー達が参加しやすい点や、森に囲まれたスロヴェニア最古の都市プトゥイの写真の美しさには心惹かれるものがある (<<http://www.orbe.com/slovenija/>> は一見の価値あり)。



EJC2005 サイトより

なぜフェスティバルに行くのか？

わざわざお金と時間を使って旅をしてジャグリング・フェスティバルに参加する意味はなんでしょう？
私は、大きく分けて4つあると思います。

他のジャグラーに出会う楽しみ

単に友達や知り合いを作るということだけではありません。ジャグリングの世界は幅広く、同じジャグリングでも人によって取り組み方やスタイルはさまざまです。また、関東と関西、アメリカ・ヨーロッパ・日本といった地域によっても、方向性やスタイルが違うという傾向が見られます。個人や所属サークルの練習ではついマンネリに陥りがちですが、各地から集まったジャグラー達の個性や特色を知り刺激を受けることは、上級者にとっても初中級者にとっても、楽しく役に立つ経験です。一般にジャグラーはフレンドリーな人種なので、積極的に話しかけ、相手の技を見せてもらったり自分の技を見せてたりしましょう。たとえ言葉が違って、ジャグリングを介してなら通じ合えるはず。

技術を学ぶ楽しみ

どのフェスティバルでも、いろいろな道具や技術に関する講習会(ワークショップ)が初級から上級までレベルを問わずに多数開催されており、テーマに沿った技術を系統立てて効率よく教えてもらうことができます。また、お互いに技を見せ合って、練習法を教えあう「全員が講師の講習会(ブレイクアウト)」も開かれ、独創的な技もいろいろ学べます。講習会に限らずとも、ジャグラーには教え好きの人が多く、練習場で見かけた人に礼儀正しく頼めば、助言をもらったり、その人の得意技を教えてもらったりすることもできます。

すごいジャグラー達や面白いショーを見る楽しみ

どのフェスティバルでも、「ゲスト・ステージ」「パブリック・ショー」「ガラ・ショー」などと呼ばれる、選ばれた出演者によるショーが開催され、一流のジャグラー達の磨きぬかれた演技を楽しむことができます。また、IJAフェスティバルやJJFで行われるコンテスト「チャンピオンシップ」では、腕に自信のあるジャグラー達が技術と演技を競いますが、ショーとして見ても見ごたえがあります(EJCにはチャンピオンシップはありません)。また、IJAやEJCで毎夜のように行われる「ナイト・ショー」「レネゲード・ショー」では、リラックスした雰囲気の中で、有志出演者による演技を見ることができます。実力者による高度な技や美しい演技を見られるかと思えば、珍芸・奇芸も飛び出し、深夜まで眠ることができません。

自分を試す楽しみ

もしあなたのジャグリング技術やパフォーマンスがとても優れているのであれば、「チャンピオンシップ」に参加して、自分の実力を試すことができます。また、特定の技術なら負けないというのなら、その分野の競技会に出場してジャグリング技術を競うことができます。これらの催しに出場せずとも、人に見せるに値する演技ができるのであれば、期間中に開かれる小規模なショーやナイト・ショーなどで演技する機会を得られるでしょう。鑑賞眼のあるジャグラー達の前で演技をすることは、日々の練習の目的ともなり、得がたい経験、良い思い出となるはずです。

もちろん、知らない土地を旅し、地元の食べ物を食べるという、旅行そのものの楽しみもあります。気軽に参加できるJJFに行くのもよし、少し冒険してIJAやEJCに行くのもよし、夏の計画を立ててジャグリングを満喫してください。



団体紹介

「しずおか大道芸のまちをつくる会」、通称「しまる会」。

ほとんどの方が聞いたこともないこのNPO団体は、今年の3月にあることをやり遂げました。それは、商店街・警察から正式な許可を得て路上での大道芸が出来るようになった、こと。こう書いてしまうと「なんだ、たいしたことじゃないな」と思われるかも。しかし、実際にはかなりの月日がかかりようやく実現したのです。

具体的な説明の前に会の紹介を少し。

「大道芸を日常的に観たい」、「大道芸のやりやすい環境をつくりたい」などの気持ちを持った大道芸好きな有志が集まり発足したしまる会。これまでの主な活動は「しずおか大道芸新聞」の発行。そして静岡において日常的な大道芸を行える場所を確保すること。

静岡に来たことがある方は、「ん？今までも週末に路上で大道芸やっていたのでは」とお思いになるかも知れません。確かに行われていましたが、それらは許可を得て行われてはいませんでした。と言うのも近隣の商店街が大目に見てくれていたのでもんとかやれていた、そんな感じでした。それを、大手を振って出来るようにするのが大きな課題の一つでした。

路上で何かをするには「道路使用許可申請書」なる物を警察署に届け出なくてはなりません。警察、市、関連各商店街、大道芸ワールドカップ実行委員会それから私たちしまる会とで話し合いをした結果、その申請書の許可がおりるのに必要な物の1つに、大道芸を行う場所の近隣の商店街からの「承諾証」が必要であることがわかりました。この承諾証を頂く上で、なにか問題(ケガや事故)が発生したときの責任の所在というものが大きなハードルとして立ちはだかったのです。それらを根気強く話し合い、保険に加入するなどの具体的な案を出すなどを行うことで、ようやく道が開かれました。

そして、平成17年3月5,6日。この日、静岡の“けやき通り”で「電線の地中化、舗道整備完了」を記念して「春一番！！大道芸inけやき通り」と言うイベントが行われ、このイベントを皮切りに路上での大道芸が開放されました。

さて、開放されたからと言ってこの活動が一段落したわけではありません。より多くの場所で日常的に大道芸が演じられる環境を整えていくために、これからも警察、市、関連各商店街と話し合いを続けていきます。現状としては、大道芸をするためにはしまる会への事前連絡が必要であるため、いつでも「行けばできる」というわけではなく、まだまだ会も至らない点がありますが、大道芸人もお客さんも楽しめるような場所を提供できるように、週末には大道芸が観られる街にしていきたいこれからも活動を続けていきたいと思ひます。

静岡のお立ち寄りの際はお時間が許す限り大道芸を観て堪能、またはパフォーマンスをして堪能して頂ければ私たちしまる会の会員もとてもうれしいです。



しまる会 代表 あまる
<<http://amaru.kt.fc2.com/>>
写真提供 Zion



原田郁子
<<http://saboe.hp.infoseek.co.jp/>>
写真提供 Zion

週末の予定、お知らせ等はHPをご覧くださいませ。また、新聞をご希望の方は私ミーコまでご連絡下されば送付致します。随時会員も募集していますので、興味ございましたら是非入会して下さいね。

大道芸が生活により身近に感じられるようにこれからもがんばっていきます。

しまる会Webサイト

<http://www.geocities.jp/shizuoka_simarukai/>

[ミーコ <kukki57108@yahoo.co.jp>]



フェスティバル報告記

【Ansan Int'l Busking Art Festival】

ソウルから南西約170kmに位置する安山市で開催された大道芸フェスティバルに参加されたブーリィ・ウーリィ・カンパニーさんに報告記を書いて頂きました。このフェスティバルは第一回目という事ですが、日本からも多くのパフォーマーが参加したようで、JugPal27号で紹介した韓国のジャグリングショップのオーナーである George さんから写真を送ってもらったので、あわせてブーリィさんのコメント付きで紹介致します。



後列左から、George、ブーリィのお二人、ソウルで教師をしているアイルランド人のポール
前列左から韓国ジャグラーのChun, Mask

フェスティバル概要

フェスティバル名: Ansan Int'l Busking Art Festival (安山国際大道芸・芸術フェスティバル)

開催地: 安山国際芸術劇場とその敷地内 (Webサイト: <http://www.aibaf.com/>)

期 間: 5月20日(金)～22日(日)

主な参加パフォーマー: デビット クレイパッチ, ファニーボーンズ, ジョスラン, リュピエトン, ミシェル コールベール, ファニーボーンズ, ハッピー吉沢, ひびCHAZZ-K, ブルーノ デスカベス, 中国雑伎芸術団, ブーリィ・ウーリィ・カンパニー (順不同)

[安部 保範]

ここからブーリィさんによる報告記のはじまりはじまり。写真提供は全て George さんから。

プレイベント (5月20日)

特設のステージに特大のスクリーンが設置され、韓国のオーケストラとコーラス隊(プロだと思う)によるショー。明日から行われるフェスティバルの案内、そして簡単なショーで出演者の紹介がされます。チャップリンの「サーカス」をスクリーンで生オーケストラ演奏付きで上映し、曲にあわせた花火の打ち上げもありました。

フェスティバルの出演者は日・米・仏・露・英・韓など19組でした。

韓国のお客様はすごくエネルギッシュで一組ずつ紹介されるパフォーマーサイドは、皆ビックリで「何でこんなに盛り上がっているんだ!？」と逆に心配気味の人もいたりして…。言葉が悪くてすみませんが、「芸人殺し」と言う人も。



5月21日(土)～22日(日)

今回は初のバスキングが可能ということだそうです。

韓国にはバスキングの習慣が無く、大道芸と言っても全ての芸を指す言葉のようで、あえて路上投げ銭という意味合いはそこに含まれていないそうです。

で、ショー終了後に帽子を置いてみたところ、パンフレットにバスキングについて説明があったせいもあり、たくさんの人たちが楽しそうに入れに来て下さいました。

ブーリィ・ウーリィ・カンパニー

イベントの一つとして楽しんでいるようでした。

韓国ではまだショー構成やキャラクター作りが苦手らしく、ジャグリングの技術を見せるだけというショーが多いようで、コメディ的なショーを生で観ることが少ないので、私たちのショーは楽しかったと言われました。

第一回目の大道芸フェスティバルでしたが、周辺の住民などを上手に巻き込んだ本当の“お祭り”でした。

安山芸術劇場が、お祭り会場となり、家族で行ってみれば、足長の人に会ったり、茶色の農民(ローピング)が立っていたりと、あちらこちらでショーをやっている本当の意味でのフェスティバルの形があったと思います。全体的にまとまった良いフェスだったと思います。

日本からも近いので「旅行のついでに大道芸を見に来ました」なんていうのも楽しいかも。



22日は雨が降ったり止んだりの一日で、雑伎は劇場内で演技。

[ブーリィ・ウーリィ・カンパニー]



韓国のローピング(右)。他にも白・赤・青・黄など郷土色豊かな格好や警察官など会場に。彼らは学生らしいです。



一番人気のデビッド・クレイパッチ。韓国語も話せるのでパッチリ韓国人の心をキャッチしていました。



イベント情報

Japan Juggling Festival 2005

日程: 8月12日(金) ~ 8月14日(日)

場所: 大阪府立体育館、第二競技場

主催: 日本ジャグリング協会

サイト: <http://www.juggling.jp/>

メール: info@juggling.jp

サーカス村第15回ワークショップ

日程: 7月17日(日) ~ 23日(土)

場所: 東村社会体育館

及びサーカス学校(旧沢入小学校)

宿舍: 東村青年研修センター

参加費: 5万円

募集人員: 約15名

サイト: <http://www.circus-mura.net/>

メール: mura@circus-mura.net

サーカス学校卒業公演

日程:

7月21日(金)・22日(土)

16時00分 ~ 17時30分

7月23日(日) 13時30分 ~ 15時00分

場所: 沢入国際サーカス学校体育館

サイト: <http://www.circus-mura.net>

メール: mura@circus-mura.net

早めの編集後記

全然関係ありませんが、今年2005年は「ロック生誕50周年」にあたるそうです。ビル・ヘイリーの「ロック・アラウンド・ザ・クロック」が発表されたのが50年前の1955年だそうで、まあ業界のシカケだとは思っていますが、この1955年に(恥ずかしながら)私は生まれました。だから私にとっても生誕50周年というわけですが、メデタイッ! ロックがもっとも熱かった60年代後半から70年代前半にかけてロックを聴きまくっていました。そう、1969年には遠く離れた異国の地でのウッドストック・フェスティバルの噂を雑誌で読んであれやこれや想像して胸を熱くしていました。(当時は情報がリアルタイムには入ってきませんでした)日本のジャグリング界も黎明期は過ぎたのだろうか。将来にわたって興味が尽きない。

ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行して、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人に関係しているものではありません。

編集発行人: 安部保範(神奈川県横浜市栄区 在住)

Webサイト JugPal<<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

見世物広場<<http://www.chansuke.net>>

E-mail: chansuke@chansuke.net



DVD紹介

【2004 WJF コンペティション】

最近見たジャグリングのDVDのレビューを書きたいと思います。これからDVDを買われる方の参考になれば幸いです。紹介したいのは、最近買って見て久しぶりに感動したDVD、WJF (World Juggling Federation) のものです。WJFはジャグリングをショーとして見せるのではなく、競技として各のジャグラーが競い合うという元でジェイソン・ガーフィールドが中心となり出来た団体みたいです(詳しい創設の理由などは分かりません)。



2004年に第一回目のコンペティションが行われた模様が収録されています。

競技者はジェイソン・ガーフィールド、セルゲイ・イグナトフJr.、ボバ・ガルチェンコ、ジーナ・シェバルツマン他。彼らはWJFのサイトでも「スーパースター」との扱いで、簡単なプロフィールをそのサイトで見ることが出来ます。

競技者は世界トップレベルのジャグラー達。その世界トップレベルのジャグラー達が繰り広げる信じられないような技の数々に2時間ぶっ通しで見てしまいました。今現在の最先端の技がこのDVDを通して見られるはずです。

アメリカのESPNで放送されたようなので、その時の技の解説などが英語でされていますが、殆どが喋りなしのBGMだけの映像がたっぷり収録されています。実況はアメリカのマジック界でも有名な「ペン&テラー」のペン。

特に気に入ったのは、ジーナのクラブのパフォーマンス。技から技へのつなぎに無駄が無く、正確で、ジャグリングをしている時の姿勢が美しく、「プロフェッショナル」を感じさせられます。360°のクラブ(クラブ3本で1分間出来るだけピルエットをすると言う競技)では、その正確さ美しさが際立ちます。

他にも、シガーボックスのジェフ・デイモントがオリジナリティの高いパフォーマンス。ディアボロでは矢部亮やフランスから「ディアボロジー」(ディアボロのDVD)に出ているメンバーがかなり高度な技を見せてくれ、新たなディアボロの時代を予感させます。

今年も12月の15日～20日までラスベガスのリビエラホテルで開催される予定。

詳しくは<www.thewjf.com>

お勧め度 　　　　　　です！(五段階評価)

価格 \$40.00 2枚組

または、ナラン八では<<http://www.naranja.co.jp/>> ¥4,725で扱っています。



[プロフェッショナルジャグラー 石川 健三郎]



ブログ風雑記帳

サーカス・シルクール (4月12日)

スウェーデンのコンテンポラリーサーカス

“Cirkus Cirkor <<http://www.cirkor.se/>>”。

多少それなりにいろいろなサーカスをいろいろな所で観てきたが、三本の指に入るほど印象的な公演だった。とてもお洒落。舞台も音楽も演技も何もかも斬新でとてもお洒落。

ジンガロ (4月16日)

観て感動するというよりも、そこ(劇場内)に身を置くこと自体に価値があるといった感じ。

水芸 江戸の手妻 (5月7日)

超一流のお囃子演奏と共に藤山新太郎師匠による至宝の和妻の数々。贅沢な時を過ごす。

講演 (4月15日)

とあるところで「大道芸を百倍楽しむ研究！」と題して講演する。古代～中世～近世～近代～現代といった時代の流れの中での“大道芸”の移り変わりを、他芸能との関わりや元は賤民・非人による流浪芸であったといった等々、様々な観点からビデオを交えて紹介。

野毛大道芸 (4月23,24日)

国際サーカス村学校の生徒たちによる公演を中心に見て回る。まとまりあるプログラムで好感が持てた。

負け犬の遠吠え (5月27日)

12回目を迎えるダメじゃん小出さんの公演。いつもながらの切り口の意外性と軽妙な語り口には、笑ったり、くちアングリ状態。しかし腰を抜かすほどの事件が頻発し、ニュースとしてはひと月も保たないこのご時世でのネタ作りには苦勞が多いだろうなあ。

立川談志と若手精鋭落語家の会 (5月28日)

談志師匠は話の随所を忘れたりと相変わらずハチャメチャだけれど存在自体で観客を沸かせる。

ANFiKS (6月18日)

普段は別々に行動している“芸人まこと”さんと“しゅうちょう”さんが、私のリクエストに応じてくれて、急遽ジャグパル取材用にユニット“ANFiKS”としてショーを披露して下さいました。いや～わずかな時間であれだけ集客できるとは壮観です。

キャンドルナイト・inさかえ (6月18日)

我が地元横浜市栄区出身の太鼓奏者ヒダノ修一さん等によるセッション。ヒダノさんはいつ見てもホント格好いいっ！！



いいづかちささん

タイガー & ドラゴン 終了 (6月23日)

久しぶりにハマったドラマが終了、残念っ！もと落研の親父と岡田准一ファンの娘との唯一(?)の接点だったのに。DVD-BOXを買うか買うまいか思案中。

ジェフ・クーンズって (6月27日)

Jeff Koons、芸術家。新聞で彼を知った。アニマルバルーンからアイデアを、あるいはそのものを使った斬新な作品には当然ながら親しみがわく。

書籍紹介 (6月30日)

「手の日本人、足の西欧人 (大築立志 著/徳間書店)」を読む。手先の器用さとジャグリングの上手さとは関係があるのだろうか。

ここ数年での日本ジャグラーの世界トップレベルでの活躍やヨーヨーやけん玉での輝かしい大会成績やギネス記録を例にとってもこの類の芸は日本人にとって相性が良いのかもしれない。手の器用さとジャグリングの上手さの相関性はさておき、よく日本人は手先の器用な民族と言われる。なぜ？

ここではちょっと変わった視点からとらえた日本人と西欧人との比較文化論を展開する。本書では日本と西洋の手と足に対する考え方や感じ方が、それぞれの文化やスポーツなどのいろいろな側面に影響を及ぼしているということを、様々な例を挙げて紹介している。



例えば言葉(手や足を使った言い回し)、長さの単位(尺とフィート)、動物の四肢の呼び方、舞踏での手や足による表現方法、スポーツ・武術における日本人の得手不得手種目など、少々こじつけっぽいところもあるが妙に納得してしまう。

結論としては、『日本と西洋の手と足に対する見方の違いは、農耕と狩猟という食糧調達手段に起因している』ということになる。

つまり西欧人は動物という移動する食糧を手に入れるために移動する手段としての足が重要視され、日本人は植物という移動しないものを食糧としていたので、足は大地をしっかりと踏みしめ立つためのものであり、鍬や鎌を扱う手作業が主となり、かつ農耕という生活習慣から座り込んでじっくりと手仕事に打ちこむことができた、ということだ。

著者は体育科学者なので文化的背景のみならず科学的な面からも考察して欲しかったが、とにかくジャグリングに興味を持つ人と持たない人、ジャグリングの上達の早い人と遅い人、同じ事をしようとしているのに歴然と現れる上手い人下手な人…一体何がそうさせるのか、そんなことに個人的には興味がある。

ピロレット その2



いいづかちささん

科学からみたジャグリング (7月1日)

ジャグリングというのは面白い。娯楽、芸術といった切り口のみではなく、科学的興味においても尽きることがない。

例えば、ジャグリングの道具の動きは『力学』の正確な運動法則に基づき、その動きから繰り出される軌跡は幾何学的に美しい。演者のアクロバティックな動きの美しさも分かり、物理学者・大槻義彦さんの「サーカスの科学 (講談社ブルーバック)」では純に力学の観点からこれらの運動を分析している。

『バイオメカニクス』とは、脳や神経の働きに伴う身体運動を力学の立場から分析する学問だが、体育科学者・大築立志さんの「たくみの科学 (朝倉書店)」では、特にジャグリングに関わりの深いキャッチと的当て(リリース)の運動制御系における脳の働きの分析が面白い。

視覚、聴覚、記憶などの知的な機能を解明する『認知科学』では、さらに脳機能に重きがおかれ研究されているが、例えば認知科学のベースを成す『脳神経科学』では、“ゲーム脳”を治癒するにはお手玉が効くとの研究報告がされている。

このほかには『ロボット工学』では、ジャグリングは重要なテーマの一つであり、ジャグリングを題材とした論文が国内でも結構発表されている。ジャグリングロボットといえばシャノンが思い浮かぶが、ジャグパル15号で紹介している。

また言わずもがなジャグリングと『数学』は切っても切れない関係にある。一例としてジャグパル2号ではサイトスワップについて紹介している。

統計データ (7月3日)

キーワードを“大道芸”と“ジャグリング”として新聞記事を検索してみた。対象紙は朝日、読売、毎日の三紙で、期間はデータベース期間の一番短い毎日新聞にあわせて1987年上期以降とした。

このグラフから何が読み取れるか？ ずいぶん件数が増えているなぁといった程度…我ながら情けない。誰かコメントをください。

脱線するが、“大道芸”自体の言葉の意味合いも、それこそ今ではトレンドでファッションブルなものとして受け入れられているが、そもそもの大道芸の生い立ちと変遷を考えると個人的にはそんなカタカナで説明づけることに少々違和感がある。それは丁度“パンツ”と同じ。いつの間にかズボン(スラックス)のことをパンツと呼ぶようになったけど、昔は違った。パンツ = 下着という定義から逃れられないオジサンにとっては、やはりズボンをパンツと呼ぶには抵抗感がある。

オジサン・オバサンたちを含む、それ以上の世代が抱いている“大道芸”のイメージというのも確かにあるので一応意識しておいた方がよいだろう。(誰に言ってるの？ いや独り言。)

言葉の持つ意味合いも時代と共に変わるということだな。

[安部 保範]

